



## 1 グランドデザイン・大阪の推進

### <和田議員>

天王寺はみどりにあふれ、文化と芸能のエリアでもあり、天王寺公園では収穫祭やイルミネーションイベントが開催されるなど、地域のにぎわい創りの機運がもりあがっているところ。グランドデザイン・大阪では、天王寺動物園を核に緑の雰囲気や緑陰の道として動物園の外に拡大し、天王寺・あべのと難波との間をLRTで結ぶ案が示されている。実を的を射たものであり、今後の展開にたいへん期待している。

夢のある構想を夢と終わらせないためには、府民・市民に対して早期に形を見せていくことが重要。事業主体やルートの検討など、LRTの実現に向け、まずは集中的に取り組んでいくべき。知事の所見を伺う。

### <松井知事>

LRTの取り組みは、なんば・天王寺・あべのの回遊性を高め、一体的なエリアとしての魅力を引き出す仕掛けとして非常に有効で、重要である。

今後、大阪市、経済界の参画を得て設立した「ランドデザイン・大阪推進会議」の場を通じて、鉄道事業者等の協力を得ながら、段階的施工も含め検討を深めていく。

#### <和田議員>

なんば・天王寺・あべのエリアと大阪駅周辺とをつなげることで、大阪のさらなる魅力向上と、世界に通用する大阪ブランドの発信につながる。

パリのシャンゼリゼ通りでは、1.2 kmの区間を巨大農園に変える「ネイチャー・キャピタル」という農業イベントが行われている。御堂筋でネイチャー・キャピタルのようなイベントが行われたら、御堂筋の全面みどり化もいいなあ、と誰もが実感できるのではないか。

都市の真ん中をみどりいっぱいにするイベントは、都市構造が変わったと実感できる素晴らしい取り組みであり、御堂筋でも実施してはどうか。

#### <松井知事>

御堂筋のみどり化については、府民の方々に具体的なイメージや効果を実感していただき、気運を高めていくことが重要。現在、側道における歩行者空間化の早期実現に向け取り組んでいるところ。府民や企業の参画を得ながら、御堂筋のみどり化を実感いただけるようなイベントの実践に取り組んでまいらる。

## 2 自殺対策

#### <和田議員>

平成10年以降、14年連続して年間自殺者が3万人を超えている状況。自殺対策を効果的に実施していくためには、府、市町村、民間団体、府民が果たすべき役割を明確にし、相互に連携、協力して社会全体で支援の手を差し伸べることが不可欠。自殺未遂者が繰り返し自殺を図るのは、地域で支える体制が不十分なためではないか。

自殺未遂者への支援を充実するため、地域でのサポート体制の強化を図るべき。

#### <健康医療部長>

自殺未遂者実態調査の結果や、救命救急センターで行っている支援の実施状況を踏まえ、来年度から保健所と究明救急センターが連携し、関係機関の協力も得ながら、搬送された未遂者を精神科医療機関や相談機関につなぐなど、地域でのサポート体制を可能なところから整備していく。

<和田議員>

10代、20代の若者の自殺者数が増えている。自殺予防の相談窓口はできる限りさまざまなルートを開いておくことが大切。若者にとって日常的に使い慣れているメールによる相談が、電話相談や窓口相談に進む第一歩となるかもしれない。府においても、若年層の自殺対策を進めるため、新たにメールによる相談を実施してはどうか。

また、自殺された方の残された遺族（自死遺族）の方々の相談は、身近な所で相談できることが重要。より身近な行政機関である保健所などにおいて、今度相談機能の強化を図るべきではないか。

<健康医療部長>

メール相談は、専門的に対応できる人材養成や確保が不可欠であり、24時間相談が入るといふ点から、緊急時の対応など実施体制上の課題もある。府教委で実施しているメール相談や他府県での先駆的取り組みについて調査・研究していく。

また自死遺族相談については、保健所や医療機関の職員などを対象に研修等を行っている。今後困難事例について、センターから直接地域に出向き、専門的・技術的な支援を行うなど、地域の核となる保健所の相談機能の強化を図る。

<和田議員>

子どもたちが、自分や他人の命を大切にすることをしっかり持つことが必要。そのためにも教育の場で「命の大切さ」を学ぶ機会をもつことは、非常に重要。

教育の場でしっかり命の大切さを伝えていくことが、成長し大人になってからの自殺防止にもつながっていくものとする。

学校における「命を大切にすること」についての取り組みと今後の方向性について伺う。

<教育長>

各学校においては、道徳の時間と教科等を関連づけながら、生きることを深く考える取り組みを行っているところ。各学校において子どもの自尊感情を高め、人とかわる力や前向きに生きていこうとする力をはぐくむため、命を大切にすることを重点的な目標に位置づけ、充実を図ってまいらる。

<和田議員>

近年注目されつつある「ライフスキル教育」というものがある。ライフスキルは、健康でいきいきと生きていくうえで必要となる技術的能力であり、だれでも習得可能とのこと。

「自分を大切に感じること」や「ストレスに耐える力」といったライフスキルを学校で習得すれば、若年者からの自殺対策につながり、将来的な自殺者の減少にもつながるのではないかと。

学校における「命を大切にする教育」に、ライフスキル教育の成果を反映させて充実される等、検討いただくよう要望する。



### 3 帰宅困難者対策

<和田議員>

東京都では帰宅困難者対策条例が制定され、来春から施行される。大阪で大規模な地震が起これば、首都圏同様、多くの帰宅困難者が発生すると考えられる。

大都市の課題である帰宅困難者対策について、府は今後どのように取り組んでいけるのか。

#### <危機管理監>

これまでコンビニエンスストア等と協定を締結するなど、帰宅支援等の取り組みを中心に対策を進めてきたところ。帰宅困難者対策については、これまでの政策を転換し、一斉帰宅抑制などについて、府民や企業の理解や協力を得るための対策等、検討が必要と認識している。

今後、中央防災会議での検討結果の公表を踏まえ、専門的知見を有する学識経験者の参画のもと、被害想定や帰宅困難者対策を含む災害対策を検討してまいりたい。

#### <和田議員>

大阪駅周辺では、昨年8月、民間企業等による帰宅困難者対策協議会が設置され、11月には大規模な帰宅困難者対策訓練が行われたと聞いている。訓練の結果を踏まえつつ、条例制定も視野に入れ、検討を進めていただきたい。

### 4 府営住宅の財産処分

#### <和田議員>

府では収入確保の一環として、府営住宅の建て替え事業などにより生み出された用地の処分を進められているところ。一方、売却にあたっては地元の方々にも影響を与えるため、地域の特性や地元の意見も踏まえて行っていただきたいところ。

夕陽ヶ丘住宅跡地には、60年にわたって利用されてきた通路があり、今でも地元の多くの方が生活道路として利用されている。夕陽ヶ丘住宅の売却にあたっては、地域の多くの方々が必要としている通路が残るよう配慮すべき。

#### <住宅まちづくり部長>

府営住宅活用用地の売却にあたっては、地元市町の協議はもちろん周辺自治体にもご理解いただいた上で進めている。夕陽ヶ丘住宅の指摘の点については、地元からも要望されているところ。これらを踏まえ、売却にあたっては、歩行者通路としての機能確保を条件とする。

#### <和田議員>

今後の余剰地売却にあたっては、地域の活用状況にご配慮いただくよう、よろしく願います。